

**事業所名** グループホームやわらぎ

日付 平成17年8月11日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** 高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会  
LIFE SUPPORT推進グループ  
評価調査員 在宅介護経験9年  
評価調査員 在宅介護経験9年  
評価調査員 在宅介護経験11年  
評価調査員 老人保健施設介護経験5年、居宅支援事業所介護支援専門員経験5年

**自主評価結果を見る**

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「昨年、12月職員が結婚したんです。その時、利用者2人がお祝いに駆けつけたんですよ。家族の了解は得たけれど、新婚本人に内緒で事を運ぶのは大変だった…」と誇らしげに語る管理者に、その時の写真を見せて貰いながら、私は鳥肌が立つほどの感動を覚えた。その写真を見ながら「このグループホームの全貌がつかめたな」と密かに思った。しかも「私は管理者を信頼しています。専門家の意見と食い違っても、現場の意見を重視しています。不安もありますが、一方それが自慢で自信でして…」の経営者側の言葉に私自身の直感を確信することが出来た。

この直感は、たった数時間の訪問中に私の中で確実なものとなっていた。このホームの最も素晴らしい所は、経営者・管理者・職員がそれぞれの立場でお互いを信頼し、尊重し、頼りにしていること、書くとは簡単だが、実際にうまく回っているホームは数少ないと思う。この歯車がかかちりと合っていると、もう何も言う事はない位だ。昨年の台風では床上浸水の被害を受け、家族や地域の人々が応援にかけつけて、利用者トラブルもなく無事だった事に感謝の気持ちと職員間の強い連帯感が生まれた。

次に、利用者との間合いが良い、もし、私自身がここで暮らすなら、認知症対応の見本です、という所より、時には大声もする楽しい職員と過ごしたいと思う。忍耐で腹の中がもやもやしている人とは付き合いたくないと思う。認知症の人は、敏感になっているから。

「利用者が、美味しく食べ、気持ちよく出す、そして元気であることをサービスの質と考えている。人間の生きていく素朴な基本であるが、実に奥深いテーマであり、毎日の挑戦である。

**特に改善の余地があると思われる点** 次のような提案をした

リビングなど共用の生活空間に、いっぱい何か飾ってあれば「家庭的で良い」という訳ではなく、利用者や家族の作品や写真、その他楽しむことが出来ればそれをきっかけに話題も広げられるし、趣味や特技の発表の場ともなるし、又季節感を感じたり、心も和むのではないかと。特に若い職員の工夫とアイデアを期待している。まだまだ活用する空間や、利用者の力の引き出しに、迫れることがあるのではないだろうか。

綿密で詳しい記録には日頃の努力や大変さを感じたが、バイタル面の記録を計画通り省力化して、利用者一人ひとりのメンタル面のメモを増やして欲しい。ちょっとしたつづやきを拾う。つい漏らした本音を書き留める。こういった発見を一人の職員のものにしてしまわないでメモして共有する。コメントを入れたり、それに対する他職員の書き込みが入ったりすれば、職員の入れ替わりがあっても、利用者をより深く知る財産になるのではないだろうか。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		

**記述項目** 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

事前アンケートに職員の一人が答えていた「出来ない」と決めつけないこと。してあげると取り上げてしまわないこと、出来るでしょと押し付けないこと。が、机上のものでなく、あちこちの現場で見受けられた。この他にも、例えば「一人ひとりをしっかりと把握して、聞き役に回って尋ねることはしない」とか「日々接している中で、その人の力、経験を知り、そのことを活かしていこう」など基本的な姿勢は勿論、トイレ誘導、失禁時、会話の時の注意など、職員間でよく気配りがされている

こんな気配りの職員のおかげを取るような気遣い、思いやりが出来る利用者もいて、実に微笑ましい。この場面のように「して貰う」だけでない「対等感」を感じ、表現できるホームこそ「同じ人間として尊重しあえる関係」と思う。

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		

**記述項目** サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

「利用者の誘導、車椅子の移乗について「トイレに行くよ」の声掛けのみで、無理やり移動させていませんか？その前からの関わりを大切にしていますか？自分の介護を振り返って見ましょう」

職員間から自発的に始まったという「申し送りノート」には、このようなお互いのケアの質を高め合おうとする書き込み、利用者一人ひとりの発見がぎっしり書かれている。職員全員がこれらを共有していることによって、「日々、元気に、楽しく、安心して」が確保されているのだと思う。また、家族からの些細な申し出、ほんの一寸したアクシデントもきちんと記録し、共有し、この問題を大切にしてお知らせ等に至るのを未然に防いでいる。こういった姿勢が、安全で安心できる暮らしを築いているのだろう。

さらに、代表者、管理者の「楽しく日々過ごす一方、大切な命を預かっている」という強い責任感のもとに敷かれたレール(連絡、連携、相談、報告は必須等)が私達にもはっきりと見ることがこのホームの礎と思われる。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		

**記述項目** グループホームとしてめざしているものは何か

「認知症の人が特別な人ではない。どんな状況の人であっても、相手と思う気持ちは同じ。不安に思ったり混乱して困っている人を前にすれば、私達は どうやって力になれるか、一生懸命考えるだけです。こんな気持ちは、相手にも通じるのではないのでしょうか、家族そのものにはなれないかも知れないけれど、第二の安心できる家と思って過ごして貰いたいし、その姿を見て家族の人にも安心して貰いたい。ただ、それだけです。……」

このホームが目指していること、日頃から思っていることを熱く、そして淡々と語る管理者の言葉にいちいち同感した。どんな状況にあれ、心地良い人間が保てる人を選んでこのホームの暮らしを築いていこうとする姿勢が、このホームの柱となっている。困難にもめげず、この柱を守り続けていることが素晴らしい。

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		

**記述項目** 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か

「色々な事情や背景を背負った、一人ひとりの利用者に対して、どうしたらこのホームで落ち着いた暮らしが出来るだろうか、場づくりにどんな工夫をしたら良いか、個々の職員が真剣に考えている事が、ここでの生活をより良いものになっている。建物や内外の設備は、そう簡単には手を加えることは出来ない。しかし、一寸した工夫や移動、装飾等が大きな影響をもたらすこともある。何が良いか、色々試行錯誤によって、ふさわしい場づくりをしてみようという姿勢が伺われた。

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人で行えることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		